令和５年度学校関係者評価協議会報告書

学校法人東洋学園
東洋学園高等専修学校

東洋学園高等専修学校は、下記日時に『学校関係者評価協議会』を開催いたしました。協議会では、協議・意見交流を行ない以下の意見と評価がありました事を報告いたします。今後は、この意見等を受け止め改善に努めてまいります。

1. 名　　称　東洋学園高等専修学校　学校関係者評価協議会
2. 目　　的
   - 学校教育自己診断アンケート調査結果の客観性・透明性を高める。
   - 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たる。
3. 日　　時　令和６年10月７日（月）18：00～19：00
4. 場　　所　東洋学園高等専修学校　102教室
5. 委員一覧

	所　　属	役　職　等
1	大阪市立小学校	校　　長
2	大阪市立中学校	校　　長
3	長尾谷高等学校	教　　頭
4	関西福祉科学大学	准　教　授
5	大阪国際大学	入試・広報部 課　　長
6	森小路　京かい道商店会	会　　長
7	株式会社　アワヤ	取　締　役
8	東洋学園同窓会	会　　長

6. 議　案

1. 報告・協議

①　学校概要について　（生徒就学状況等）

②　生徒指導・教務・進路指導　各部より報告

③　令和5年度学校教育自己診断アンケート結果報告

④　意見交流

7. 議　事

1. 報告・協議

①　教頭から本校教育活動概要、各学年在籍者数の報告。1年51名、2年48名、3年48名、全学年147名　男子生徒62名、女子生徒85名　各学年クラス編成2クラス。

②　生徒指導部長から、令和5年度生徒指導規定による処分件数と内容について報告。地域と連携した行事の取り組みについて報告。生徒の傾向と状況説明では、家庭環境、外国籍生徒の状況報告。学校と地域の連携について、七夕行事の報告。地域清掃活動を各学期1回から、月2回ほど実施。参加生徒については完全自由参加であったが、初回から10名の参加。地域の方々からお礼やお褒めの言葉を頂くことでやりがいとなっている。

教務部長から、新課程における生徒のコース選択状況などを報告。また、不登校・長期欠席生徒への支援の取組と概要を説明。教員の授業力向上の為、授業力向上委員会の設置とその目的、取り組み内容を報告。

進路指導部長から、令和5年度の進路報告と今年度の進学・就職共に試験がスタートした旨と、令和5年度卒業生の進学先・就職先の報告。令和5年度中の合計求人企業数と求人数、進路指導部としての年間計画と各学年における設定目標などを報告。

③　令和5年度学校教育自己診断アンケート分析結果報告（教頭）

＜生徒アンケートより＞

授業については8割程度の生徒が肯定的な意見を示している。その反面、3割程度の生徒が学ぶ環境として否定的な意見を出している。その否定的な部分が設備面であるのか、授業の実施状況であるのかを各教員が意識し、すぐに改善が可能な事柄については協議し改善しなければならない。

進路については9割弱が肯定的な回答をしている。現状で満足せずに100%の肯定的意見を目指して生徒の進路実現ができるよう尽力する。

学校生活全般において生徒からは肯定的評価が多くを占めているが、継続すべき

取り組みや改善すべきポイントを常に協議しブラッシュアップしていかなければならない。生徒にとって最適と考えられる3年間の教育計画を実現していくことが必要と考える。

＜保護者アンケートより＞

質問項目のほとんどで 80%～90%程度の肯定的回答である一方で、1 割程度の保護者が、子どもが登校することに対してC・D評価であった。生徒がすすんで学校に行きたがらないなどの家庭での葛藤があることが見受けられる。また、情報提供などは8割以上が肯定的に捉えているが、生徒によっては配布物が保護者の手に届かない可能性も考えられる。そのため情報提供の方法を紙媒体だけではなく、google classroom を用いた配信方法も検討していく。

また、就職の際の求人情報の提供はこれまでは学校で紙媒体の閲覧であったが、家庭でも保護者とともに生徒が閲覧できるようデータベースに登録し、それをそれぞれがスマートフォンを通じて閲覧できるようにした。このように情報の提供方法については改善の余地がありこれからも実現可能な事項から順次実行する。

＜教員アンケートより＞

学校の取り組みに対しての評価はおおむね肯定的であるが、教員研修などにおいての評価で否定的な回答が多い。外部研修への参加機会が少ないことや、学内研修においてもその意図が伝わっていないことが原因かと考えられる。

また、総合的な探究の取り組みにおいても否定的な回答が多い。生徒たちが自発的に考え学ぶことができる内容の実施を目指さなければならない。

④ 意見交流

- 各委員からの学校教育自己診断アンケート結果に対する意見まとめ

- アンケート結果で肯定的な意見が多く丁寧な対応をしているのが伺える。また、学校現場において肯定的な意見の部分においても問題は起こりうるがそれを対処していくか、その結果がアンケートの結果につながる。学校生活は楽しいと感じている生徒が多いが、「学校に行くことが楽しい」という項目では数値が下がる。ここがこれからの課題かと感じる。
- 事前にアンケートを見て感じたことは、高校生以上の子どもたちで肯定的な意見が多いということはすごいことだと思う。地域への貢献などもありぜひ続けていくべき事柄だと思う。地域の学校でもあり、一緒に研修を実施したり、異年齢での生徒同士の交流などができれば良い。
- 以前は2年生の生徒の評価が低いという結果があったが、今は学校に対して肯定的である。進路指導においての結果で当該学年である3年生の評価が低い点が気になる。また、学校環境についての評価で生徒・保護者からの評価が若干低いと感じる。教職員のアンケート項目が集約され昨年度からの改善がみられ

る。教員の研修において十分な時間が取れていないように感じる。総合的な探究については、高大連携も検討されてはどうか。大学側の教員と高校側の教員が意見交換などすることで得られることも多く、双方に良い影響をもたらすと思われる。

- 全般的に肯定的であるが、不満がくすぶっているようにも感じる。環境面での部分が気になる。総合的な探究については、自分自身がいろいろな高校と連携して実施しているため連携できる部分もあり、一緒に考えていける。
- 年々アンケート結果の評価が高くなっていることが読み取れる。生徒のプライバシーに関する項目の結果が低い点が気になる。学校と保護者のコミュニケーションの方法も多様化してきており、すべての保護者に情報が伝わるようになってきている。生徒たちが自発的に行動できるようにする部分で苦労していることがわかる。それをしようとすると教員に時間的な余裕が必要であると感じる。その時間的な余裕がないことが教員アンケートの研修の項目の低評価につながっているのかと推察する。地域として生徒たちを見てきているが、気遣いができる生徒なども増えてきているように感じる。地域で連携する取り組みとしては今後も一緒にしていきたい。
- 年々良い結果となってきている。コロナ禍では様々な取り組みで制約があり大変であったかと思う。その頃からは大幅に結果が改善されている。制服をとてもきれいに着ていると感じる。制服と個性は相反する部分があるが、生徒さんに選んでもらえるよう、協力できるようなことがあれば良いと思う。
- 8 割以上の生徒が肯定的な意見を持っていることは学校としては喜ばしいことだと思う。現状が良いと思っている事柄でも時代によって価値観も変わっていくので、それに応じた変化も大事である。相互的な探究の時間も、目線を変えて次につながる創意工夫が必要。商店街とコラボレーションするなど、グループで生徒が積極的に学べるようなことがあれば良い取り組みができる。
- 保護者からの評価については低いという程ではないが、学年があがるにつれて低下している傾向がある。良い学校とするには学年があがるにつれて評価が上がることが大事かと思う。

8.　まとめ

校長より

　教育活動では一人ひとりをより深いところから理解することに努め、個々に寄り添う形で取り組んでいきます。生徒一人ひとりを大切にしながら、粘り強く、あきらめず、生徒とつき合いながら生徒の成長を目指します。

　不登校生が本校でも近畿情報でも増えており、中学校においてもの不登校の生

徒対応で、先生方も苦労されているように推察します。本校においても不登校の生徒が通いたくなるような環境づくりと、対応できる教師陣の育成を目指してまいります。また、保護者からの評価についても学年が進行するにつれ下がる傾向があり、これは入学前の期待感の高さが、満足度という部分が入学後に低下しているということであると思っています。これは学校として重く受け止め改善していく必要がある事項であると考えております。

そして、東洋学園の新たな歴史を刻むためにも、今回頂戴した指摘を改善して、生徒・保護者・地域の皆さまから理解され応援していただける学園づくりに努めてまいります。